

水祭り

カンボジアの水祭りはタイやラオスの水かけ祭りとは違いボートレースが中心で 11 月の満月を中心とした 3 日間行われる(今年は 11 月 20 日から 22 日)。混雑がひどいので去年はテレビで観戦したが、一度ボートの写真を撮りたいと思い、3 日目の午前中約 2Km 離れた川岸まで歩いて行ってみた。この日のレースは午後からでまだ練習中だったが、ボートレースはトンレサップ川がメコン川に合流する手前、カンボジア日本友好橋の向こう側からスタートし、王宮前をゴールに 2 艘ずつのタイムレースで行われる。雨季の終わりでトンレサップ川は増水し、緑色の草がたくさん流れていた。

ボートは約 20 人乗りと 60 人乗りの 2 種類があり、旗の番号から推定すると 300 艘以上が参加している。各地の予選を勝ち抜いたチームが参加しているようだ。ボートは普段お寺に安置されているので、カンボジア人にとって“神輿”のようなものかもしれない。ボートをどうやってここまで運んだか不思議だが、道路を運ぶのは無理なので、川沿いに漕いできたとしか考えられない。どなたかご存知の方教えてください。

祭りの期間中 300 万人の人がプノンペンへ来るそうだが、一方プノンペンの人口は 132 万人なので、多くの人が野宿をしていると思う。日が暮れるとイルミネーションで飾った台船が何艘も川をゆっくりと移動する。精霊流しの意味があるそうだ。また花火が上がり、人々はイベントで盛り上がる。暑い昼間よりも夜の方が人出が多いようだ。

今年の祭りでは最終日の夜のイベントの後、帰りを急ぐ人々が橋に殺到し折り重なって倒れるという痛ましい事故(352 名死亡 395 名負傷)が起きました。犠牲者のご冥福をお祈りします。



練習中のボート。後方がカンボジア日本友好橋、中左にゴールの赤い小舟が見える



揃いの T シャツを着たチーム(乗員 56 人)



夜の出番を待つ電飾台船



人やバイクでごった返す川の近く。奥のビルに向こう側の橋で事故が起こった。

カンボジアの産業

カンボジアの国内総生産(GDP)は2008年に1人当たり716ドルで、内訳は農林水産業27%、工業26%、観光で代表されるサービス業39%である。工業は繊維・衣料と製靴が90%以上を占め、農村から出てきた若年女子労働者約30万人が都市近郊の工場で働いている。しかし人口の少ないカンボジアでは低賃金労働力に頼った産業には限界があり、経済発展のためにはより高度な産業へシフトしていく必要がある。日本政府もカンボジア側と協力し、日本企業を誘致するための投資セミナーを日本国内で何度か開催し、最近日本企業からの引合いも増えている。10月初め、日本のモーター製造会社の方が工場開設のため電気・電子技術者の人材調査に私の学校に見えられた。

タイに主力製造拠点を持つ会社で、来年4月からプノンペン近郊の工業団地で操業を開始する計画である。その工業団地では今年5月から味の素が操業を始めているが、進出している外国企業は10社程で、まだほとんどが空き地だ。まだまだ時間は掛かると実感したが、日本の大手企業の進出は工業化の第一歩。10年後には産業集積が進み大きく発展していることを期待する。



味の素の工場。タイの工場から製造移管

プノンペンの今

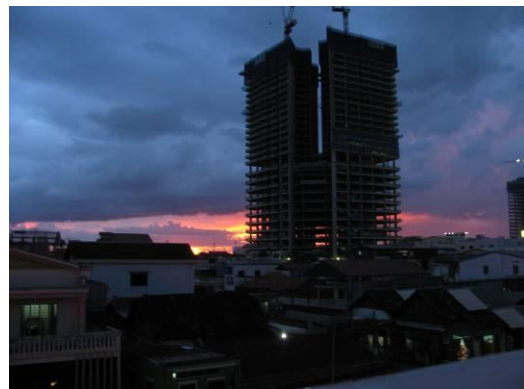
プノンペンの顔はここ1~2年でものすごく変わっている。ビル建設の工事があちこちで進み、新しいショッピングビルが次々オープンしている。とくに女性用のファッション、美容の店が目立つ。またレストランの競争も激しく、安く気に入っていた店が、いつの間にか模様替えをし、経営者が変わっている。住んでいると生活に便利な都会だが、バンコクやホーチミンと比べるとまだまだスケール(経済力)は小さい。



最近、家の近くにオープンした衣料品店



家の前の通り。左のアパートの4階に住んでいる。



家の近くで建設中の42階建てのビル。31階100mの高さで9月初めから工事が中断。右端のビルは工事が進行中。